

内外交差点

世界の道を再び走る！ ソコカラが繋ぐ「日本車の第二の人生」

前出 啓太氏 (はなまる新規事業本部) 第11/12回

前回は、長年連れ添った愛車が役割を終えた後、解体されて「部品」としてドバイなどで再利用されるプロセスについてお話ししました。しかし、ソコカラの役割はそれだけではありません。まだ十分に現役として通用する車両を、1台の車として「海外輸出」し、次なる活躍の場へ送り出すことも、私たちが得意とする大切な領域です。

日本の車はどこへ行く？ 世界を駆ける輸出ルート

私たちが買い取った車両は、独自の販路を通じて世界中のバイヤーへと届けられます。現在、特に需要が高い国々をご紹介します。

【国別出荷ランキングトップ5】

順位	国名	主な輸出方法
1位	マレーシア	RORO船
2位	ロシア	RORO船
3位	スリランカ	RORO船
4位	パキスタン	コンテナ船
5位	タイ	RORO船

* 2025年度(4~12月)

では、これほど多種多様な国々へどのようにして車両を届けているのでしょうか。そこには、1台の価値を損なわないための緻密な輸送戦略があります。

まさに職人技！「コンテナ詰め」の舞台裏

海外へ車両を送る際、単にコンテナに並べるだけではありません。限られたスペースにいかに効率よく、傷をつけずに積み込むか。そこにはソコカラが誇る、パズルのような熟練の職人技があります。

積み込む際は、専用の器具を用いて車両を固定し、立体的に配置することで、1台あたりの輸送コストを最小限に抑えています。

この徹底したコスト管理こそが、皆様への高価買

取を実現する大きな理由の一つとなっています。その根底には、1台の車を最後の1秒まで生かしきるといふ、私達の強い信念があります。



確実に届ける、海を越えたりレー

日本で買い取られた車両は、船便に揺られ、ドバイなどの主要港へは約2~3カ月ほどの歳月をかけて到着します。この数カ月という輸送期間を経ても、日本で大切に乘られてきた車両を手に入れたいたいという熱いニーズが、世界中に溢れているのです。

なぜ「LPガス車」が海外で選ばれるのか？

日本のLPガス車が海外で選ばれる理由はどのようなところにあるのでしょうか？理由は、高い経済性と汎用性にあります。天然ガスが豊富な国では、低コストで稼働できるタクシーとして重宝され、第二の人生を歩みます。また、燃料の種類を問わず、過酷な使用に耐えた高品質な「日本産パーツ」としての需要も絶えません。この実用性と信頼の高さが、支持され続ける鍵です。

3月は中古車市場の「最盛期」

これから3月末にかけて、自動車税の還付時期とも重なり、個人ユーザー様や事業者様からの買取・仕入れが一年で最も活発になります。

前回ご紹介した「部品としての再生」と、今回の「車両としての輸出」。この2つの強力なルートを自社で確立しているソコカラだからこそ、走行距離や年式に関わらず、車両に「確かな価値」を見出すことができます。

皆様大切にされてきた1台が、再び世界のどこかで誰かの生活を支える——。そんな新たな舞台への橋渡しを、ぜひ私たちソコカラにお任せください。